

第488回 三水会便り

6月例会・現地集会を中止、「山小屋支援」に寄付
懐かしい話第二報をお送りします

アイザック・ニュートンは、1665～66年、ペスト禍でケンブリッジ大学が閉鎖され、帰郷したときに万有引力の法則を生み出すきっかけをつかんだそうです。「創造的休暇」と言われています。新型コロナウイルスの緊急事態宣言が全国的に解除されたのを受け、山岳四団体の山岳スポーツ再開指針が提示しましたが、なお慎重な対応を求めており、静かな環境は有意義に過ごしたいと思えます。6月例会・現地集会を中止します。山小屋支援活動に寄付しました。第488回三水会は、懐かしい話/第二報をお送りします。(高橋)

連絡事項

■6月の例会・現地集会を中止します

6月5日に予定していた甲州街道の山行は延期します。高尾から小仏峠を経て相模湖まで歩く計画でした。再度行う時期はまたご連絡します。6月17日(水)の例会を中止します。

■山小屋支援プロジェクトに寄付

登山活動自粛のため存続危機に陥っている山小屋を支援するプロジェクトが立ち上がっています。日本山岳会の呼びかけで、三水会も1万円ずつ計2万を寄付しました。

◇「山小屋支援プロジェクト」<https://readyfor.jp/projects/yamagoya>

◇ヤマケイ「山小屋エイド基金」<https://motion-gallery.net/projects/yamagoya-aid>

■清水義浩理事のヤマ情報提供に注目

三水会のみなさんに、清水義浩理事からヤマ・登山に関するホットな話題を提供していただいています。テレビ・新聞等で取り上げられた、あるいは放送予定、イベントの開催予定、ホームページの内容紹介等です。「三水会便り」のネット網を使い、三水会会員に個々に直接配信されます。5月21日には上高地の地震をとらえた映像を流していただきました。目が離せません。

提供された情報	
提供日	内容
05/29	登山再開をするために
05/28	中国が世界最高峰の標高を再測定
05/22	粕理事、モンベル会長にインタビュー
05/22	竹内洋岳さんの8000m峰14座データ
05/21	富士山雪形
05/21	上高地・雪崩や落石
05/18	予定/16日に田部井さんエベレスト女性初登頂
05/15	予定/17日に幻の山カカボラジ再放送
05/14	予定/18日にJAC甲斐駒ヶ岳バーチャル登山
05/11	日本人エベレスト登頂50年
05/09	カトマンズライブ中継「東ネパール現地報告」
05/07	平田和也さんからメッセージ

■山岳四団体が緊急事態宣言解除後の登山活動ガイドライン示す

日本山岳会など山岳四団体は5月25日、政府が新型コロナウイルス緊急事態宣言を解除したのを受けて、山岳スポーツ再開に向けての基本的なガイドラインを提示しました。内容はあらかじつぎのとおり。

1. 近距離(100km 圏内程度)でできるだけ都道府県を跨がない日帰り登山から始める。
2. 体調不良での登山は止める。
3. 登山は少人数で行う。パーティーは、当面5名以内で。
4. 登山ルートの下調べと地図、コンパスの持参、登山届けは必ず提出し、家族にも残す。
5. 登山中でもマスクを着用する。着用時は、熱中症及び脱水には十分留意する。
6. ソーシャルディスタンスをとる。一般的に2メートル前後だが、登山中はさらに距離が必要。
7. 登山山域内での買い物や下山後の呑み会等も地元住民への感染防止の観点から控える。
8. 自粛中に衰えた筋力、体幹を鍛える。

■日本山岳会ルームを6/1から

5月9日から閉鎖していたルームを6月1日から徐々に解除し開室します。6月1～19日は次の通りとなります。あらかじめ事務局に連絡してください。

- ・入室人数制限/集会室=8人、104号室=10人(A8人+B2人)、図書室=2人まで
- ・遠方からの入室/おおむね100km圏内のみ可(山岳四団体指針)。
- ・クラスター発生を考え、入室者に会員番号、氏名、連絡先電話番号などを求める。
- ・入室の際は、手指消毒、マスク着用、大声は慎む。
- ・入室前2週間に、体調不良や発熱(37.5度以上)がある場合は入室不可。途中で体調の異変や発熱があった場合は、ただちに退室してもらう。
- ・トイレ使用後は、便座、トイレットペーパーホルダー、ドアノブなどを各自が消毒。
- ・ルームでの飲食は控える。
- ・換気に努める。

懐かしい話/第二報

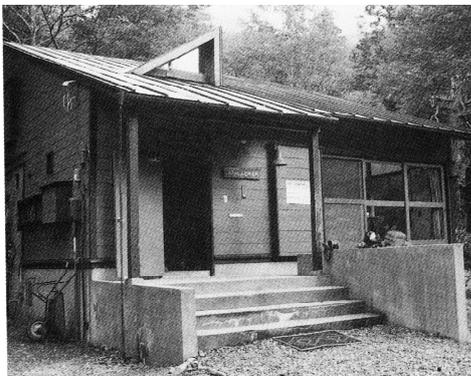
山研「あんころ餅」はゴジラが立ち上げた !?

網倉、沼倉、伊藤会員の提案で実施。第1回は77年9月10日に開催

網倉志朗(1853)、沼倉寛二郎(2185)、伊藤信夫(7381)の三人の会員を紹介したい。三水会創設期に活躍され、「あんころ餅と薬湯の会」を立ち上げた人たちだ。網倉さんは90kgもあったそうだ。みんなに愛された。山梨県出身。伊藤さんとともに東宝に勤務されていた。「あんころ餅」を始めたいきさつは、三水会「10周年記念誌」に伊藤会員が投稿された。「25周年誌」に再録した。再び概略を取り上げたい。

山研は、2代目が1973(昭和48)年10月に竣工、翌年6月に公開された。しばらくたって沼倉さんが網倉さんと伊藤さんを山研にさそった。9月第1週土日に集まることにした。前日、網倉・伊藤さんは必要なものを伊勢丹で買った。あれこれと物色したうえ、網倉さんは最後に『ゆであづき』の大きな缶を取上げて「これ二人で一つでいいな」と言った。「山でのおしるこは、結構いけるんだ」、「それなら、沼さんの分もいるでしょう」、「薄めりやあ大丈夫だよ」と大きな荷物を伊藤に預けた。

翌朝三人は新宿の中央線のホームで落ち合い、松本電鉄とバスに乗り継いで上高地に着いた。夕食の時、網倉さんが「あれ出してよ」と言うので、「これですね」と、伊藤がゆであづきの缶を出すと、沼倉さんが吹き出して「君達も持ってきたの。僕も持ってきた」と言って、ザックの中から同じゆであづきの缶を出した。「今夜は豪華にオシルコパーティーだ」と網倉さんが喜んだ。早速、管理人さんにあづきと餅を渡してオシルコをつくってもらった。



二代目山研(1973.10~93.04)

オシルコを食べながら、「この山研を山岳会の中に定着させなくちゃアならんので、工夫何かないかね」と、沼倉さんが切り出した。「それじゃア、ここで一年に一回、会をやろうぜ」と網倉さんが受けた。「時期はいつがいい」、「伊藤君はいつがいい」、「この9月の第一週の土・日でなくちゃアこられないね」、「じゃア、9月の第一週の土・日で決まり。来年の今夜、第一回のおしるこの会」と、網倉さんは大きな声で言った。「それじゃア、御手を拝借」と、沼倉さんが両手をかまえた。三人は沼倉さんの音頭で手を締めた。第2回は78年9月2~3日に実施した。折井健一(1755)、斉藤

健治(4651)、高田眞哉(6450)さんらが加わったが、お酒のないのに音をあげた。斉藤が代表して「自分の分は持ってくるから次回から許してほしい」と頼み込んだところ。網倉さんが甲府の後輩のために目こぼした。「あんころ餅」に「薬湯」が加わった。



NHKにプロジェクトXという長寿番組があった。プロジェクトに携わった人々を登場させて成功の秘密を探っていく番組だ。「ゴジラ誕生」をテーマにして放映したのは2001年1月23日だった。円谷英二と彼を取り巻くチームのお話だ。さまざまな困難を乗り越えて、とにかく撮影は順調に進んだが、怪獣の名前がなかなか決まらない。ある日、円谷監督は社員食堂で昼食を食べていた。前にいたのがアミクラさんだった。大きな体でゴリラといわれていた。大好物のクジラを食べていた。円谷監督がひらめいた。ゴリラがクジラを食べている。ゴリラとクジラを足して「そうだ！ゴジラだ！」というわけで名前が決まった。わが三水会のアミクラさんは、東宝演劇部に勤めていた。三水会にゴジラがいた。広辞苑で調べると

「ゴジラとは「ゴリラとクジラを合わせた造語。1954 年作の映画の題名」と由来をきちんと収録している。しかし、残念ながらゴジラが日本山岳会に、しかも三水会にいたとは、書いていない。このことは、ぜひ伝えていきたいと思っている。 (記/高橋重之)

※「ゴジラ誕生」はNHK 出版「プロジェクト X」6 (2004 年1月発行)に詳しい

「あんころ餅と薬湯の会」参加の思い出

寄稿/田中恵美子、山口延子

その 1/2000 年9月 松本駅に夕食と朝食の食料買出しのため集合。勝田さんといつも例会のとき素敵なお帽子をかぶっていらした瑞子ちゃん(岩堀)の指図で集まった人達で買い物しました。沢山の品物を手にタクシーで山研に着くと、片岡先生や坂倉さん、その他の方々がすでに到着していて、テーブルの上には差入れの土地の銘酒やビールが並び賑やかになっていました。差入れといえば、何と言ってもあんこ屋さんの川上さんが持って来てくれたあんこが最高でした。勝田さんに聞いたのですが2キロから4キロありました。お汁粉など美味しく、三水会も山酔会になって夜遅くまで宴会が盛り上がりたくさんあった薬湯もあんころ餅も翌朝になるとなくなっていたのにびっくりしました。翌日、田中、山口は徳本峠小屋で 1 泊し翌朝まだ星がかがやいている空を見上げ霞沢岳目指して歩きはじめました。頂上から上高地を見て、もくもくと下山して帰路につきました。

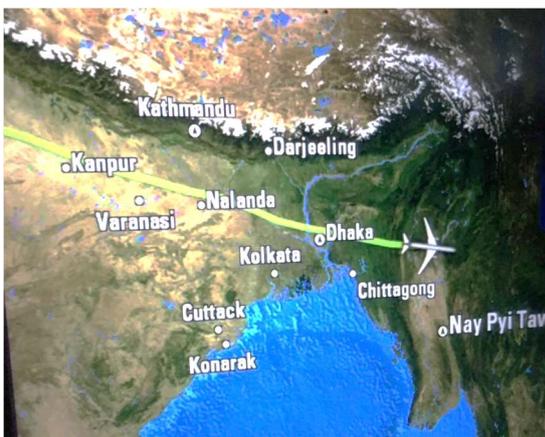
その 2/2001 年 9 月 1~2 日 今回は予定より 1 日前に出て、蝶が岳に登ろうと 2 人で計画した。豊科から三俣コースを登り、蝶が岳山荘で 1 泊。槍、穂高連峰が素晴らしかったのを覚えている。熊よけに鈴を鳴らしながら樹林帯のなかを進み徳本峠に着く。霞沢岳を往復している塩沢さん、高橋さんら一行と徳本峠でドッキングして皆で山研に着いた。夜は前回と同様に楽しい時を過ごす。翌日、斉藤健治さん(三水会二代会長)のその年の山荘からの田中宛のお便りの一部に「狭心症と腰痛で往年の元気が無く淋しくなります」と書かれてあったのを思い出し仲間数人と斉藤さんの山荘が中央線の日野春にあるのでちょっと顔を見せに行こうと言って山荘に伺ったら「よく来てくれたね」ととても喜んでくださったのを覚えている。

ローマから南周りで“大河を見下ろす旅”を楽しむ

寄稿/遠藤源太

清水義浩理事から紹介された NHK 番組「Hkakabo Razi」(カカボラシ)などに関連して書きました。昨年 12 月にヨーロッパへ旅行。費用を安く抑えるため中東のカタール航空を利用し、ドーハ乗り換え便で行ったのですが、帰りは地中海からレバノン経由でカタールへ。ヒマラヤ南のインドから東南アジア、横断山脈、いま話題の武漢・上海を経由して成田までのルートでした。ルートには、大河が多く、それが文明発祥地となっていることが分かります。上空通過ながら、昔習った四大文明を育んだ大河のうち三つまでも制覇。過去に行ったナイル川も加えて私はようやく文明人化したことになったことを発見しました。

成田空港⇄ドーハ空港⇄ローマ空港です。行きは、まず多摩川。長崎まで陸上に行く。天津からIranまで乾燥した大陸が続く。黄河、インダス河、ユーフラテス河、ドナウ河下流の支流と続き終着はテベレ川。小さい川ながら古代ローマを支えた。物質輸送の点では地



中海が大河と同様の役割を果たしたが、テベレ河口で船荷を小舟に積み替えローマへ運んだ。帰りは、流石にアフガニスタンとイスラエル上空は避けて飛びましたが、ミサイルが飛んできそうなIran、Iraq、シリア上空などはなぜか無事に通過しています。通過した大河は、インダス河、ガンジス河、プラマプトラ河、エーヤーワディ(イラワジ)河、タンルウィン(サルウィン)河(上流は怒江)、メコン河(河口は旧サイゴン)、ソンホン河(河口はハノイ)、珠江(河口部は広州・香港・深圳など)の最大

支流、長江(揚子江・河口は上海)です。

ローマ発の夕方便は、ドーハ空港離陸が早朝だったのですぐに眠ってしまいました。ミャンマーから中国雲南省通過時はたまたま雲がなく下界が良く見え、大河の写真がとれました。南周り便は、北回り便に比べて飛行時間、待ち時間ともに長くかなり疲れそうですが、中東系の航空会社は、機体はもちろんテレビなどのシート周り設備が最新で映画などのソフトが充実、食事とワインがうまいうえにサービスのお姉さんたちは途上国的に美人揃いです。昔の我が国も同様でした。昨今のアメリカやロシア、ドイツもそうだったか、キャビンアテンダントたちの重量制限が真面目に検討されているのと大違いです。

機内のナビ画面によると、高度約1.1万m、速度900km/h、方位角99度でほぼ東、航路図とおり途中で昆明に向けやや北へ方向を変えました。河床高度は左300mと右1000m。大きさが感じられます。航空路図、過去の飛行便航跡図、グーグルマップ、写真の記録データおよび直感で各大河の同定を試みました。

写真1をみると、河の蛇行は兩岸の山の褶曲した山稜ひだと並行しています。複数段の大きな河岸段丘は現在も隆起中であることをうかがわせます。大陸同士の衝突による造山作用が視覚的にわかります。濁った水と洲、河原などの自然な感じからタンルウィン河・中国名怒江と思われます。急流でダムは一つもありません。



この大河からの飛行時間10分、距離150kmでメコン河のようです。写真2/左岸は開墾され畑のよう。洲はあるが河原がなく、河岸が不自然に見えます。ダムのせいか水は流れるよりも淀んでいるようです。メコン河の中国側はダムが多く環境破壊と流量減少、水産資源枯渇などで近隣諸国と国際問題になっているとか。メコンデルタの河口部は旧サイゴン。



メコン河からすぐに現れた赤い河は大理付近に発するホンハイ河で、平行な山嶺に沿ってこれも概ね真っ直ぐに南流する。最初の大河からここまで河口にハノイがある。タンルウィン河からここまでの距離約200km、13~4分の飛行。ホンハイ河から東方26分後に見えた大河は珠江の支流と思われます。河口と珠江デルタに広州や深圳・香港があり、長江河口の上海同様に経済発展が著しい。

上海はその昔、倭寇にたびたび襲われた漁村だったそうで、防衛のための城を中心に発展したとのこと。倭寇は長江を遡り南京まで侵略し、明朝が衰えた原因の一つとのこと。これはテムズ川を利用してロンドンを、またセーヌ川を遡りパリを襲ったバイキングのようですね。ただ倭寇の日本人の活躍は初期のみで、かつ秀吉以降の鎖国政策などで独自の国はつくれませんでした。バイキングはイギリスをはじめデンマーク、スウェーデン、ノルウェーなど現在に続く国をつくっています。

この後、下は雲もりがちになり、眠たくもなったのでワインをおかわりしつつ成田までうとうとと午睡を楽しみました。ドスンという着陸の揺れで気持ちよく目覚めるのはいつものことでしたが、2か月半後にこのようなコロナ騒動が起きるとは夢にも思いませんでした。

疑問 往復で飛行ルートが違うのは何故でしょうか。大半は往復ともに同じルートのはずです。何かの理由で不定期にルートが変わっているようです。どなたか教えてください。

三水会便り 第488回 発行2020年6月1日
東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会三水会
便り担当 北口マリ子, 山口延子, 文責/高橋重之